

第27回人流データ利活用研究会 議事概要

1. 日時 2023年6月14日(水) 15:00~17:00
2. 場所 総務省第二庁舎408室
3. 議事内容
 - (1) 宿泊者数推計シミュレーション全国展開 (2023年、2月統計値確定基準)
 - 1月までのデータを用いた回帰分析の当てはまり(6か月RMSPE)、2月の乖離率とも全体的に良好であった
 - 6か月RMSPEが15%を超える県は鳥取、山口、徳島の3県
 - 乖離率が25%を超えた県は群馬、和歌山、鳥取、山口の4県
 - RMSPEが15%を超えていた徳島県の乖離率は-13%
 - 推計安定度は上方移動している。これは全体的に乖離率が高かった8月の値が集計から外れたためである
 - 推計安定度は宿泊者数の人数規模によっている(規模の大きい県が良い傾向)
 - (2) 宿泊者数推計シミュレーション市区町村 (2023、1月統計値確定基準)
 - 横浜市の乖離率は11%、京都市ともに乖離率は2%
 - (3) 宿泊者数推計方式の検証・評価
 - 推計を行った15か月分(2021年12月から2023年2月)のRMSPEと乖離率の傾向把握し、宿泊者数推計のシステム全体としての精度を評価
 - 目的は、結果公表に向けての基礎資料作りとさらに高い精度の高い推定を行う余地がないかを探ることにある
 - 今回は推計に用いた14モデルの6か月RMSPEと乖離率(絶対値)の関係を提示
 - モデルの中では、実数値を用い区間分割を行ったモデルがRMSPE、乖離率ともに低い水準を達成(平均値での評価)。また、区間分割を行ったモデルの中では分割の幅を短く(最低の区間幅が6か月)したものが両者の成績がよい
 - これまでの推計では、14モデルの中からRMSPEが最小となるモデルを選択し、そのモデルから統計推計値を導出してきた。選択モデルの乖離率は上記、実数の区間分割モデルと同等の低い平均、散らばりを示していた
 - よって、RMSPEによるモデル選択は低い乖離率を達成するために十分に機能していたとも言える。一方で、単一モデルの成績を大きく上回ることもないことから、選択規準は改善の余地があるかもしれない
 - 今後は県単位、月単位でどのようなモデルが選択されているか、その挙動を精査する
 - (4) 人流データ比較について
 - 複数社の人流データについて、データ収集方法、人口推計の方法などを一覧にしてまとめた
 - (5) 病院入院患者数の分析
 - 東北にある市の入院患者数予測。市全体の病院病床数に対しメッシュでの可視化を試みた
 - さらに、午前4時台の人流データを用い、市内にある2つの大型病院の入院患者数を推計
 - ただし、1つの病院については、同一メッシュ内にホテルや主要幹線道路が含まれ、午前4時台の人口が当該病院の病床数を大きく超える値となっていた
 - 今後、公表されている病床利用率との比較を行っていく

(6) 関東地区にあるDMOについての分析

- 当該地区の人流の動きを追ったところ、2020年9月から2022年2月にかけてデータの断層が発生している
 - 同時期に居住者数が減少し、非居住者数が増加している
 - 居住者と非居住者の総数で見ても、データの断層が発生している
 - データ提供元に問い合わせたところ、この間に居住地設定のプログラムを変更したとのこと

(7) その他

- 次回研究会は8月9日（水）15:00～17:00に総務省第二庁舎で開催

以上